

■宅地ごとに外構の共通イメージを保ちながら、敷地条件や建物に合わせた個性的な外構を計画するためのマニュアルです。

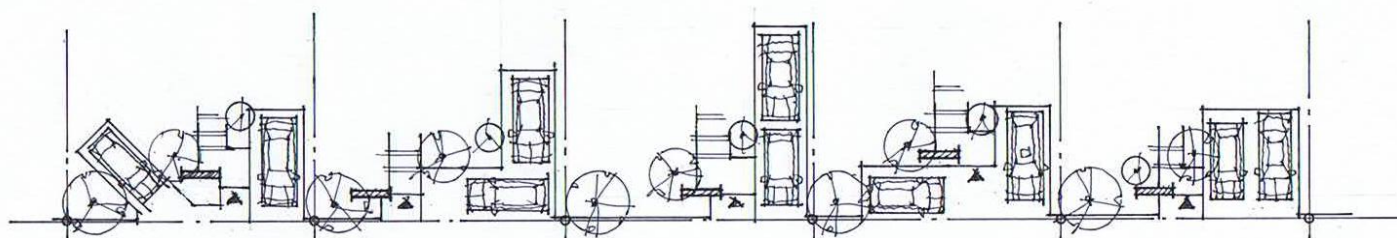
下記の手順を参考にデザインを決めていくことで、お客様との打ち合わせの際にわかりやすい計画が可能です。まちなみガイドライン本文及び付図と合わせて参考にしてください。

ステップ1. カースペースパターンの決定

建物配置を考慮して、「カースペースセットパターン」から駐車タイプを選択します。

(ガイドライン8ページ、および宅地ごとの外構参考図を参照)

カースペースセットパターン



Y字タイプ T字タイプ 縦列タイプ L字タイプ 並列タイプ

ステップ2. 門周りバリエーションの決定

ガイドライン付図「標準門柱バリエーション A~F、及び基本素材」を参照し、門柱の組み合わせパターンを選択します。

また、敷地条件や建物のイメージに合わせて各パターン要素の組み替えは可能ですが、その場合、枕木調ポール部材を最前列に配置し、かつガイドラインの条件を遵守してください。

Dタイプを選択した場合には、レンガ門柱に替えてバリエーションとして吹き付け又は左官仕上げとすることも可能です。



参考写真：枕木調門柱部材イメージ
ニッコー 製・ファンクションポール
120角×H=1.0・1.25・1.5m

ステップ3. 透水性舗装の範囲及びカラーの決定

出入り口部分については、街区道路境界からおおよそ 1.0mの範囲を共通外構として、透水性舗装材（ニッコーのホーミィバリアフリー表面リップ付き 198 角）で施工してください。

汚水柵や雨水柵が道路境界から 1.0m程度に設置されている場合は、仕上げ材の切り替え目地が柵にあたらぬように工夫してください。

カラーは標準色として 4 色用意されていますが、お客様のお好みに合わせてください。

（ガイドライン 9 ページ 3-③、及び付図 3 参照）

サンプルは、美しが丘現地現場事務所の近くに用意されてありますので参考にご覧ください。

共通外構以外の建物側の床仕上げ材は自由ですが、共通素材と違和感のないもので、できるだけ緑化目地と併用してください。



参考写真：ニッコー・ホーミィバリアフリー
表面リップ付き 198 角



参考写真：
カースペースの緑化

ステップ4. 共通外構で生け垣のパターンを決定

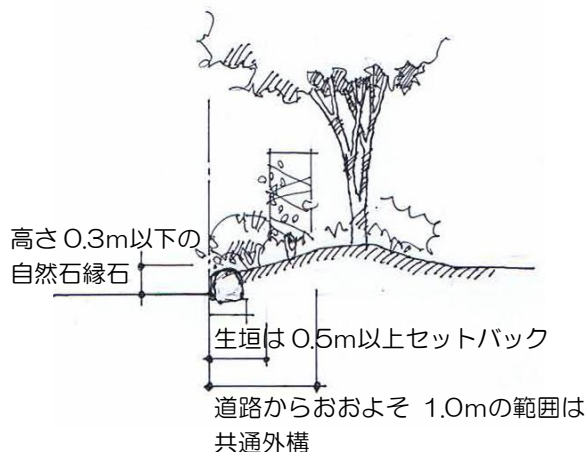
街区道路沿いは出入り口周りを除き共通外構による緑化を実施してください。

（ガイドライン 10 ページの 4 を参照）

道路境界から 1.0mの範囲を自然石縁石、灌木及び生垣を設置し、共通外構とします。

緑化部分は、二重植栽で H=1.0m程度の生垣を設けるか、又は 1.0mの範囲で灌木の大刈込を設置するかを選択します。

特に角地のコーナー部分は、積極的にまちなみの演出を工夫してください。



参考写真：自然石縁石と緑化

ステップ5. 高木の決定

宅地内には道路から見える範囲で3本以上の高木を植栽することになっています。

- ①今回は並木用にH=3.5~4.5m程度の葉張りのあるシマトネリコを植栽。
- ②門柱周りのシンボルツリーは、ヤマボウシ等の花木や、ヤマモミジ等の紅葉の美しいものでお客様のお好きな樹木を選択してください。
- ③その他の常緑樹はH=3.0m程度のソヨゴ、シラカシまたはキンモクセイ等でボリューム感のあるものを選んでください。



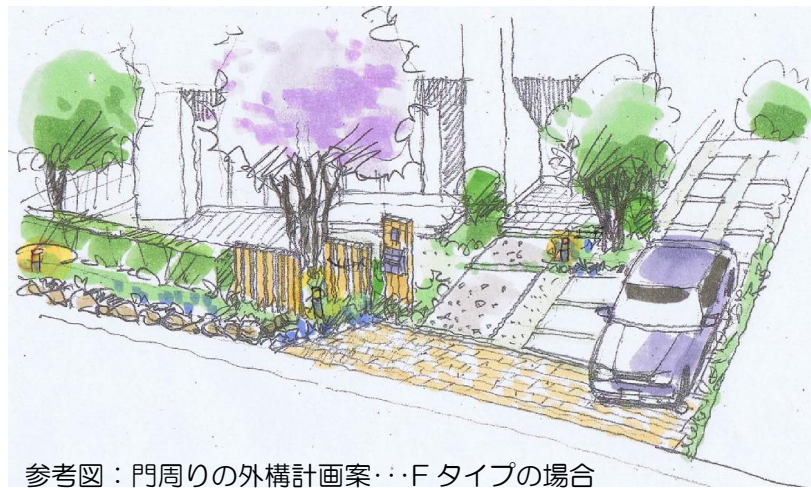
参考写真：シマトネリコ



ヤマボウシ



ヤマモミジ



参考図：門周りの外構計画案・・・Fタイプの場合
ポール列柱3列+柱付きポストの例